清流ニューズ

発行所
八王子市子安町1-22-25
清流寺
清流ニューズ編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164
http://seiryuji.jpn.org/

平成二十七年度総祈願
本年度教化誓願達成
佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃
佛立開花運動第三年度御奉公成就之御願
晨尊三十三回御諱報恩御奉公成就
役中後継者養成・法灯相続促進

四月の御総講日

一日　十時　御修行日
七日　十時　バースデー総講
日序上人報恩祈念
十三日　十時　高祖御命日
十七日　十時　開導御命日
廿五日　十時　門祖御命日

於清流寺

十二日　十時　高祖御逮夜
十六日　十時　開導御逮夜
廿四日　十時　門祖御逮夜
三十日　十時　歓尊御命日

於羽村別院

特別行事
廿五日　高祖大士立教開宗記念日
教化必成祈願口唱会

会議
一日　御総講後　役中会議
廿五日　御総講後　教区長会議
同　午後三時　参事会

4月25日

高祖日蓮大士立教開宗記念
教化必成祈願一万遍口唱会
午前六時～十二時迄

来る廿八日は、高祖大士立教開宗記念日です。

当山は、例年この日を教化誓願必成祈願口唱会を開催して居ります。

本年は日程の都合により、廿五日の御総講日に一万遍口唱会を実施いたします。

お祖師様日蓮聖人は、十六歳から、十六年間、比叡山延暦寺を根拠として、南都六宗といわれた、奈良仏教や、真言、念仏、禅宗等の諸寺を遊学研鑽遊ばされ、故郷千葉の清澄寺に於て、久遠本仏のご本意である、上行所伝本因下種の南〇経のお題目を、一切衆生救済の法として、力強く立教開宗を宣せられました。

佛立開導日扇聖人はご教歌

吾祖師の宗旨びらきの
はじめには
旭のそらに鶴の舞ひしと

私共佛立信者は、お祖師様のおかげで、この尊い御法様にお出値いすることができたのであります。又ご教歌に

思へ人祖師御出世の
なかりせば
御題目は誰が手よりきく

と仰せられています。

このお祖師様への大恩報謝の志をあらわし誓願者全員が教化必成をめざして口唱会に参加いたしましょう。

四月十一日
本寺 乗泉寺へ当番参詣
第三座 十一時三十分
奉修導師 当山住職

来る十一日(土)乗泉寺の当番参詣があります。

今回は、当山住職が奉修導師をお勤めになります。

当日は第三座、十一時三十分開始で、「信寿会参詣増強の座」ということで、いわゆるベテランご信者が乗泉寺では大勢参詣されます。

強信者さんの信心前にふれる絶好のチャンスともいえます。一人でも多くお参詣をさせていただきましょう。

功徳会会費納入のご案内
一口でも多く申込みましょう

四月は、功徳会会費申し込みの月であります。

この「功徳会」は、当山の第二義納金とも申すことができ、その使途は多岐に亘っております。

因みにその使途を次に挙げますと、

一、宗門三大奉納金への協力
イ　本山御初灯明料
ロ　宗門総回向料
ハ　高祖会全国奉納金
二、本山や、本寺（信廣会）への協力
三、海外弘通応援
四、年間予算計上外の出費
五、教務員教養費
六、その他対外的な出費
七、佛立新聞購読料

以上、これらすべてが功徳会御有志から充当されています。この功徳会の奉納金は、発足当時の昭和三十八年、一日十円(ひと月三〇〇円)を一口として、毎日お看経毎に「功徳箱」に入れ、お寺に奉納しておりましたが、現在の貨幣価値から考えてみますと、一日十円という観念はいかがなものでしょうか！

四月朝参詣強調週間
四月二日～六日
第二連合担当

桜の花も咲き出していよいよ春本番という季節になりました。

月初めの朝参詣で今月のご弘通ご奉公成就をご祈願させていただきましょう。

四月二日（木）日野教区
三日（金）立川教区
四日（土）大和教区
五日（日）国立教区
六日（月）京王教区

例月七日
全教区合同教化道場

毎月七日の御総講日は弘通デーで、全教区合同の教化道場が実施されます。

各教区では、それぞれ教化道場を実施していますが、清流寺の御宝前で全教区の誓願者が一堂に会して御弘通を祈願させて頂くことにより一層弘通意欲を盛り上げるエネルギーが、湧いてまいりますから一人でも多くお参詣に気張りましょう。

日序上人御十七回忌報恩ご奉公
御有志奉納者氏名(その六十四)
(教区順。敬称略。順不同)
二十七年三月十五日現在
合計　八二四名、一，六〇四口

本月の御妙判

是則勇猛　是則精進

心は是れ、身の主也。同名同生の天是れ能く人を守護す。心固ければ則ち強し。
身の神尚尓なり。況んや道場の神をや。弘決第八に云く、常に人を護ると雖も必ず心の固きに依りて神の守り則ち強しと。
（道場神守護事1532）

人間の行いは皆其の心の現われるものですから、心が正しければ、其の行いも自ら正しいということになるのであります。

人の身に同名・同生という二天が宿っていて、其の人を守り、又其人の心の善悪を常に能く見ているという事は華厳経、薬師経にも出ています。それで其の人が堅固な心で信心も強ければ、此の二天も常によく其人を護り、種々の障礙をも防いでくれると考えられているのであります。

道場神というのも華厳経その他のお経にも説かれていますが、これは仏を奉安し、人々が集まって修行する道場を守る神で、この守護の神が護っていてくれるお陰で一切の魔が近づかないということになるのであります。天台大師の摩訶止観の注釈で妙楽大師の書いた「摩訶止観輔行伝弘決」に道場神の事が説かれてあります。

「道場神トイフモノハ、仏法ヲ信ズル者ノ身ヲ護ルノデアルガ、其ノ道場ニ集ッタ人ノ信心ガ堅固デアレバ、之ヲ護ル神ノ力ハ必ズ強ク、若シ人ガ神ノ護リバカリヲタヨリニシテ、各自ノ信心ニ弛ミガアルト神ノ力モ弱イト云フコトデアル。」

法華経を信じて、口唱信行が常に強盛であるというとき、法華経宝塔品に

「是レ則チ勇猛也。是レ則チ精進也」と説かれてあって、末法における法華経の修行は必ず**「一心欲見仏、不自惜身命」**の一心不乱でなくてはなりません。

御教歌には

一心にいのらば妙は顕れぬ
凡夫考へ及ばざりけり

と、お示し下されてあります。一心であるから「勇猛」で、一心であるから「精進」ということになるのであります。末法における法華経の修行とは、勇猛精進の一語につきるわけで、凡夫考えのない「一心」の御信心が大切です。